

# 熊薬同窓会々報

## 第 45 号

平成17年11月30日  
発行

### 平成の薬学維新：先駆ける熊薬の薬学教育

薬学部長  
小田切優樹



今正に、薬学の置かれている状況は、「平成の薬学維新」を彷彿させるものがあります。顧みますに、熊本大学薬学部（熊薬）は細川藩再春館の御薬園・蕃滋園を起源とし、1885年に私立熊本薬学校として独立以来百二十年を経て今日に至るまで、先人達により、常に時代を先取りした高度な研究・教育を実践してきました。その間、熊薬から優秀な創薬研究者が数多く輩出されてきたことは、特記すべきことです。また、近年では、薬学部と医学部が統合した研究組織として大学院医学薬学

研究部が2003年に設置され、教育面においても、発生医学研究センター、生命資源研究・支援センターや医学部附属病院との協力体制が整い、他大学に類のない研究者育成や薬剤師養成のための教育システムが構築されています。

この度、我が国では、医療技術の高度化や医薬分業の進展等に伴う医薬品の安全使用や薬害の防止といった社会的要請に応えるため、医療の担い手として高度な薬剤師の養成教育が求められ、薬学教育に関する法改正が2006年4月1日より施行されます。一方、科学技術創造立国の一環としてゲノム創薬を始めとした国家戦略的重点化事業の推進などから、国際的競争力を有する創薬研究者の育成が要請されています。

この法改正を受けて、薬学領域の新しい展開に対応できる人材の育成のため、全国の国公立大学薬学部では、6年制学科と4年制学科の2学科を設置します（図1）。そこで、熊薬同窓生の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、新しい制度での熊薬の独自の取り組みについて、紹介したいと思います。

熊薬は高品質なクスリを創り、それを適正使用できる人材の育成を使命とし、薬剤師養成の6年制課程として「薬学科」を設置するとともに、従来の4年制学科の特色を活かした研究者養成に特化した「創薬・生命薬科学科」を設置します。さらに、それを支援する組織として、日本初の「創薬研究センター」を新設します（図2）。

「薬学科」では、豊富な人材を擁する医療薬学系教員（実務実習担当教員を今回新たに4名採用）に加え、医学系教員の協力により、その入学定員は55人と国立大学の中では6年制学科の割合が最も高く、他大学では実現できそうにない高度な薬剤師養成教育を行うことができるものと自負しております。すなわち、大学院医学薬学研究部という独自の組織体系を活かして、基礎医学系と臨床系教員の協力により特長ある薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリキュラムを編成しました。なお、参加型実務実習の開始前に、必要な基本的な能力（知識・技能・態度）を適切に評価するための共用試験（基礎知識を問うコンピュータ支援基礎学力試験（CBT）及び技能や態度を問う客観的臨床能力試験（OSCE））が導入されます。さらには、医学部附属病院の各診療科を医学部生と共にグループでポリクリを行うことも計画しています。当然ながら、卒業すると薬剤師国家試験の受験資格が得られます。

一方、「創薬・生命薬科学科」では、発生医学研究センターや生命資源・支援センターの教員も参画し、少数精鋭主義をモットーに、入学定員を35人とし、学生の自主性を尊重したカリキュラムを編成しております。なお、本学科は研究者養成を主たる目的としていることより、学部終了後、卒業生は2年（修士）あるいは3年（博士）の大学院へ進学するものと予測しております。もちろん、学部4年を終了した段階では薬剤師国家試験の受験資格は得られません。ただし、大学院2年間を終了した後、さらに必要な単位を取得し、かつ5ヶ月の実務実習を行い、一定の要件を満たすと、薬剤師国家試験の受験資格が厚生労働大臣から認定される場合があります。

## 目次

平成の薬学維新：先駆ける熊薬の薬学教育	1	博士号取得者	17
退職にあたって	3	計報	17
研究室だより	5	学内だより	17
支部だより	6	寄付者一覧	18
関東支部（東京バッテン会）・近畿支部（銀杏会・楠熊会）		同窓会役員	18
広島支部（鯉杏会）・福岡支部（蘇陵会）・宮崎支部		個人情報の取り扱いと保護について	18
卒業生だより	9	平成16年度同窓会収支決算	19
熊薬、昔は今（22）	10	平成17年度同窓会予算	19
熊薬研究助成金受領者研究報告書	13	百周年記念史料室への展示品の募集	19
卒業教育講座	14	連絡先	19
シンポジウム報告	14	熊薬研究助成支援の会「1-10千人会」について	20
平成17年度薬学展報告書	15	熊薬同窓会からのお願い	20
庶務報告	16	平成18年度研究助成の申請について	20
慶事	17		

特筆すべきことに、熊薬ではクスリ創りを本格化するため、“Made in Kumamoto University”の医薬品開発を目指す研究拠点として、また「創薬・生命薬科学科」の教育支援拠点として、さらには一流の創薬研究者を育てる教育拠点として、我が国で初めての薬学部附属創薬研究センターを2006年4月、薬学部・大江キャンパスに新設します。過去に本学出身者が中心となって開発した世界に誇れる画期的な新薬として、抗潰瘍薬のガスター、抗痴呆薬のアリセプト、抗高血圧薬のプロプレス、排尿障害治療薬のハルナールがあります。新設された創薬研究センターからそれらの薬を凌ぐすばらしい新薬が世に出る日を遠からず夢見ています。

なお、今回の会報では、薬学教育カリキュラム並びに創薬研究センターの詳細について、それぞれの担当者より報告して頂く予定にしております。

申すまでもありませんが、目前に迫った薬学部6年制教育には、多方面で精力的にご活躍中の熊薬同窓生諸氏の暖かいご支援とご鞭撻が不可欠であります。2010年度からの参加型長期実務実習の本格実施に向けて、「クスリ」というキーワードで結ばれる関係諸氏の暖かいご指導と忌憚のない叱責を切にお願いする次第です。

最後に、熊薬同窓会の今後の益々のご発展と皆様方のご活躍を祈念申し上げます。

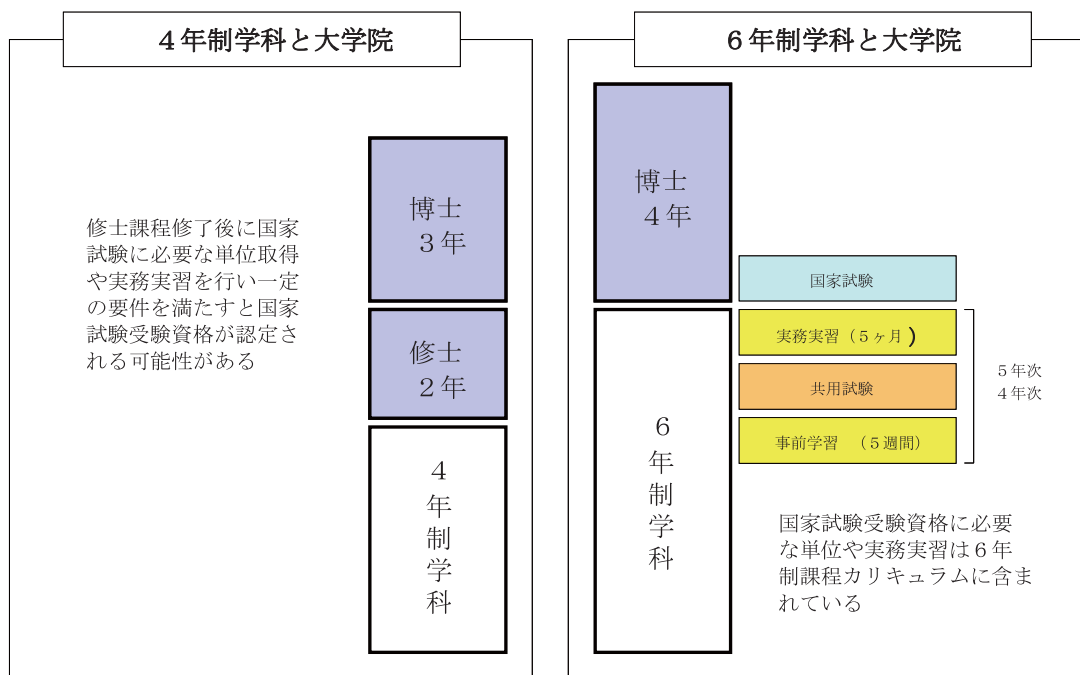


図1. 新制度における学部教育と大学院教育

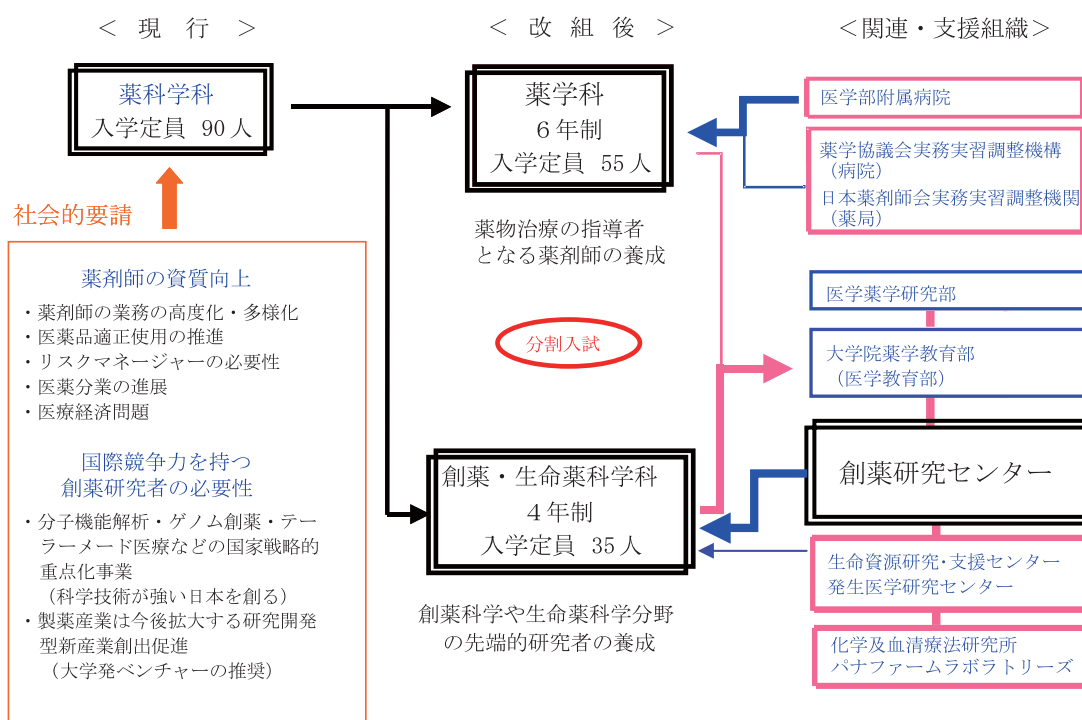


図2. 熊薬における薬学科と創薬・生命薬科学科の併設